

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	長岡技術科学大学
整 理 番 号	B04
構 想 名	グローバル社会を牽引する実践的技術者育成プログラム ～グローバル産学官融合キャンパス構築～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することがと判断される。
(コメント)	<p>本構想は、日本経済のグローバル化の進展に対応する実践的グローバル技術者を育成するため、企業との長年の共同研究を基礎として、高等専門学校-技術科学大学モデルを海外拠点校に展開する「GIGAKU（技学）教育ネットワーク」と産学連携モデルを日本企業の戦略的海外拠点に展開する「GIGAKU テクノパークネットワーク」を通じて「グローバル産学官融合キャンパス」を実現しようとする取組である。</p> <p>長岡技術科学大学は、平成30年にUNESCO Chairプログラムに日本の工学系として初めて認定され、さらに、UNAIのSDG9世界ハブ大学に選定されて国際的な評価が進み、国連及びハブ大学間のネットワーク形成が着実に進んでいる。カリキュラム編成においてもSDGsや実践的技術者としてのグローバルな貢献への学生への意識付けが強化され、プログラムが整備された。ハード面でも早い時期からスーパーGI-netの整備が進み、ツイニング・プログラムでの遠隔授業に活用され、遠隔入試の実施や内外の連携拠点を結んだ国際連携教育プログラムの拡充及び企業との連携にも寄与している。ガバナンス面では、新年俸制の導入により、外部資金獲得について教員の意識啓発と意欲向上が図られている。また、寄附金獲得に組織的に取り組み、SDGs重視の考え方と外部評価を通じた国際的なブランド力の強化等により企業等からの資金提供も増えている点、今後の自走化への取組として評価できる。</p> <p>一方で、数値目標に達していない評価項目については、引き続き、対応策の検討と進捗状況の継続的な確認が必要である。教育面では、学生の英語運用能力の向上という課題があり、実学という特徴を生かし学士課程・修士課程までを視野に入れたプログラムを運営し、大学院での英語の授業を充実させる方向性も示されているが、学部段階における具体的な成果が期待される。</p>